

IV 汐風のマーチ／田嶋勉

メロディ・ラインが、美しい流れを持っています。コード進行も教科書通りとはいえ、7th コードの多用・挿入されるブリッジに個性を持ち(この部分のコード進行の設定にも新鮮な感覚)、しかも良く整理されて、全てに渡って優等生マーチです。

課題曲は、吹奏楽がどうあるべきか、の存在と方向を示してしなければなりません。単なる思いつきや、奇を衒ったものでは困ります。この点からこの曲は、現役教育者としての作品として立派なものです。あとは、演奏する側がどれだけ理解し、どのような絵を描くかの課題が残るわけです。どの要素も、パート・セクションに渡りかなり太く書かれています(色々な編成に考慮してでしょう)ので、こういった色彩で描くかには、しっかりとしたイメージが要求されます。

曲の内容は、いわゆる古典的な意味でのマーチというカテゴリーに入るかどうかは別として、マーチする心・気持ち・ムードなどが曲になっている、と考えれば良いと思います。4拍子で書かれていますが、2拍子感覚のリズム感を持っています。4拍子ですが、1・2・1・2と取って下さい。テンポも136と、歩くという以上に浮き立つような気分です。

表題は“汐風”ですので、英訳表題の“Ocean Breeze”が良く合っています。日常生活的な、また季節的なものを越えて、自然の大きさ・豊かさを表現したいですね。上記しましたように、殆ど全パートにスコアされていますので、味付けの工夫・色彩表現の工夫が必要です。とくにダイナミズムの表現には、各部分で各パート別の強弱設定が大切です。

<導入部>【A】までの3小節

目の前に海の広がりを見て、一挙に湧き上がる気持ちでしょうか。3小節目でマーチに入ります。シンプルだけに、難しいところです。アクセントの位置を思い切って生かしましょう。

<第1マーチ>【A】

流れるような美しい旋律です。音域・ブレスなどを考慮して。管楽器の旋律には、弦楽器と違ってある程度の制約を受けます。そこを大変上手く、各パート・セクションを考えながら、合の手のようにカウンターを挿入して、一連の流れ(長いフレーズ)を創り出しています。管楽アンサンブルの旋律手法の1つであるといえます。



【B】

ここでは、コード設定・進行に留意して、とくに全合奏での、和音の響きをしっかり確認したいところです。16・17小節目の2拍目のウラ、18・19小節目のコード進行はクリアーに響かせたいところです。

Alto Saxophone のみに旋律を託すという大胆さ（？）が、ハッと聴衆を捉えて、効果的です。ここでも、Glockenspiel が注目されます。昔ですと、Bell lyra（ベルリラ）が活躍したのではないのでしょうか。【I】からは、Piccolo と Euphonium が加わる、というシンプルなアンサンブルで、とても新鮮な感じがして不思議です。

フレージングを守る

ハーモニーを美しく

L

A^{\flat} $A^{\flat}7$

D^{\flat} $Ddim$ Cm $C^{\flat}dim$ $B^{\flat}m7$ $E^{\flat}7$

<Ending> 【N】

やはり主題のリズム動機を滲ませながら、音階を掛け登って終わります。最後まで一貫した要素・構造を持っています。

2010 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲分析

課題曲の中の課題 2010

監修・著作：櫛田 肤之扶

編集・制作：株式会社ウインズスコア

配布・公開日：2010 年 6 月 1 日

楽譜引用元：

広瀬正憲・高橋宏樹・長野雄行・田嶋勉・鹿野草平

『2010 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』全日本吹奏楽連盟、2010 年 2 月 1 日発行

※本書の著作権保有者は、著作者である櫛田 肤之扶であり、櫛田 肤之扶の協力・許諾のもと、(株)ウインズスコアが本書を制作・配布・公開しております。

※本書に掲載されている楽譜の一部は、『2010 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』からの引用であり、全日本吹奏楽コンクール課題曲の権利は、(社)全日本吹奏楽連盟に帰属します。

※本書の配布・コピー等の利用については、本書の内容・目的を理解した上で、金銭の受け渡しが発生しない場合に限り許可いたします。

※本書を使用するの、第三者との紛争・トラブルが発生した場合、著作者・制作者、及び(社)全日本吹奏楽連盟は一切責任を負いません。